

お知らせ：次回発信日は9月10日週報(予定)

Jミルクが2026年7月31日に公表した「需給見通し(※2026年5月迄実績)」の予測値と直近の実績値(牛乳乳製品統計)をグラフ化しています。

「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行：一般社団法人Jミルク生産流通グループ

【7月の統計実績】

● 生乳生産量

全国が、前年同月比±0.0%(日均量、以下同)と、7カ月ぶりに前年水準割れを回避した。地域別では、北海道が+0.9%と7カ月ぶりに前年水準を上回った一方、都府県は▲1.4%と11カ月連続で前年水準を下回り前月から減少率も拡大した。指定団体受託乳量(速報)は、北海道(ホクレン)では、7月下旬から8月下旬まで4旬連続で前年水準を上回っており、都府県でも東日本を中心に乳量が増加し、8月中旬は4旬ぶりに前年水準を上回った。

● 牛乳等生産量

牛乳の生産量は、前年同月比▲2.9%と12カ月連続で前年水準を下回り前月から減少率が拡大した。牛乳のうち、学乳および業務用を除く牛乳(=家庭用)は同▲2.6%と2カ月連続で前年水準を下回り、前月から減少率が拡大した。成分調整牛乳は74カ月連続、加工乳および乳飲料は12カ月連続で前年水準を下回っており、牛乳類全体としては12カ月連続で前年割れとなった。一方、発酵乳については、2カ月連続で前年水準を上回り、単月として2022年度以降で最も高い水準となった。以上の結果、生乳の飲用等向処理量は、前年同月比▲4.2%と12カ月連続で前年水準を下回り、前月から減少率が拡大した。生乳供給量が前年並みで推移した一方、飲用等向処理量が減少したため、乳製品向け処理量は+5.2%と4か月ぶりに前年水準を上回った。

● 乳製品需給

脱脂粉乳は、生産量が12.4千トン(+8.9%)、推定出回り量は12.1千トン(+2.6%)と需要量が供給量を下回った結果、在庫量は前月から約0.3千トン増加し、月末在庫量は79.8千トン(+25.6%)と20カ月連続で前年水準を上回り、4か月連続で70千トンを超えた。一方、バターは生産量が6.0千トン(+9.6%)、推定出回り量が6.2千トン(+0.8%)、輸入売渡数量が0.3千トンとなり、需要量が供給量を下回った結果、在庫量は約0.1千トン増加して39.0千トン(+20.7%)となり、在庫量は23カ月連続で前年水準を上回った。

【8月および8/24週の販売動向データ】

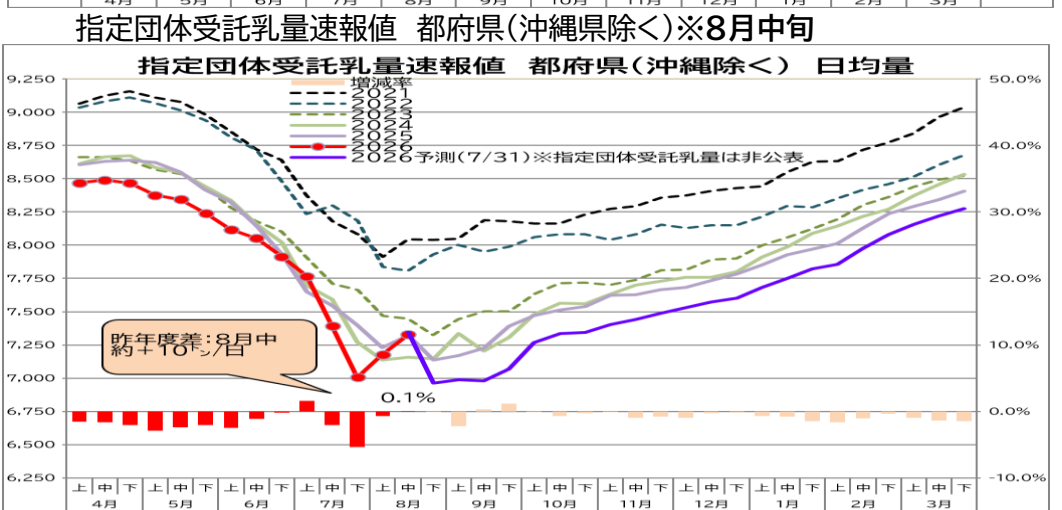
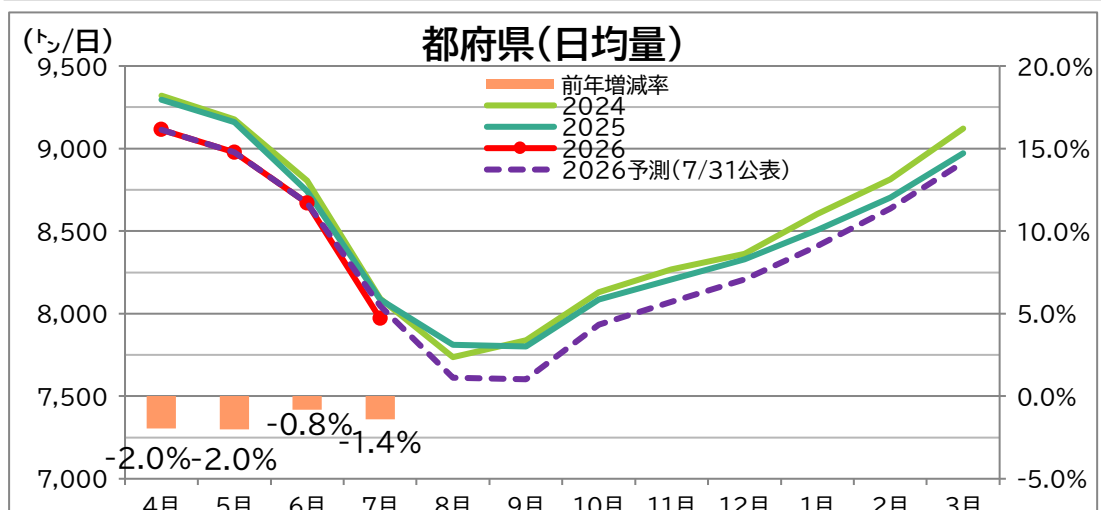
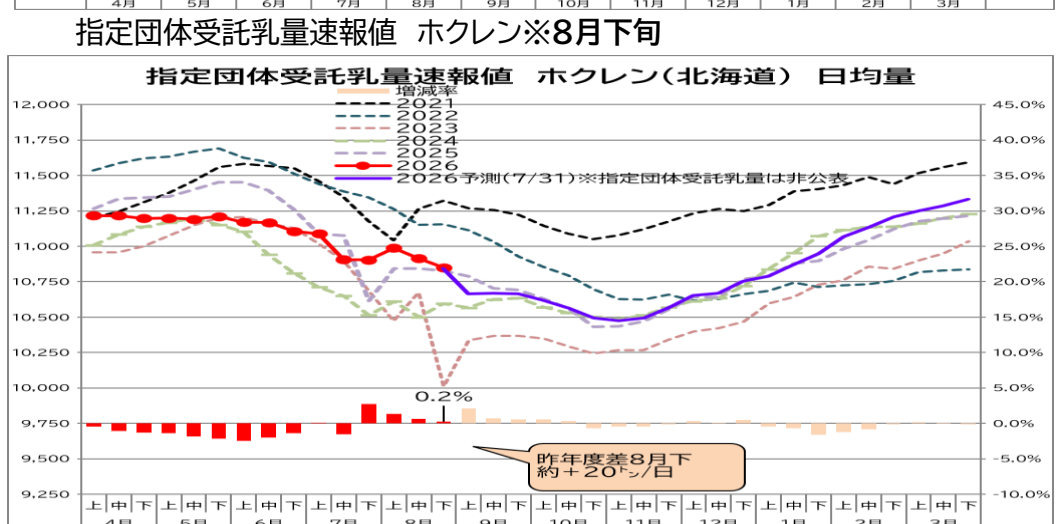
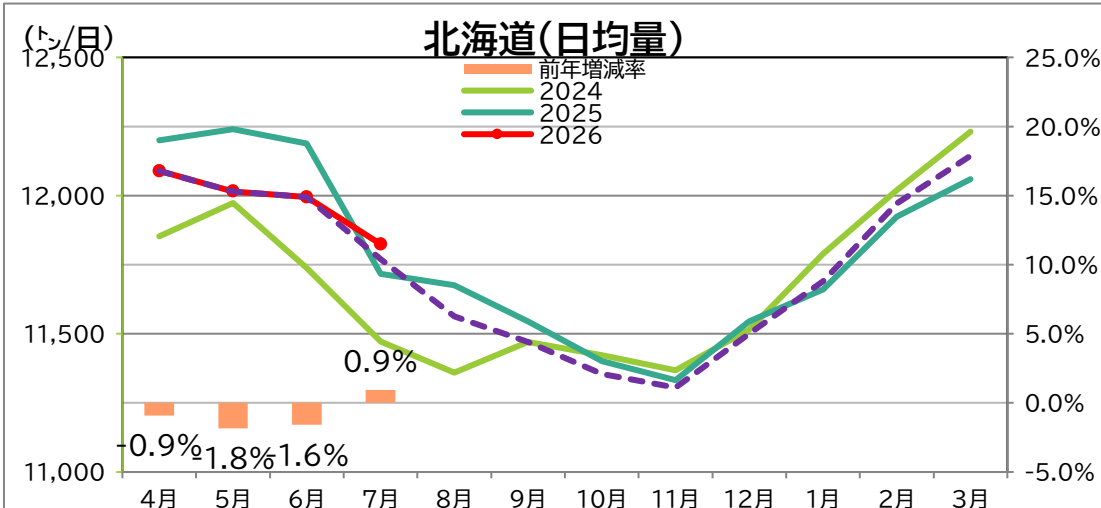
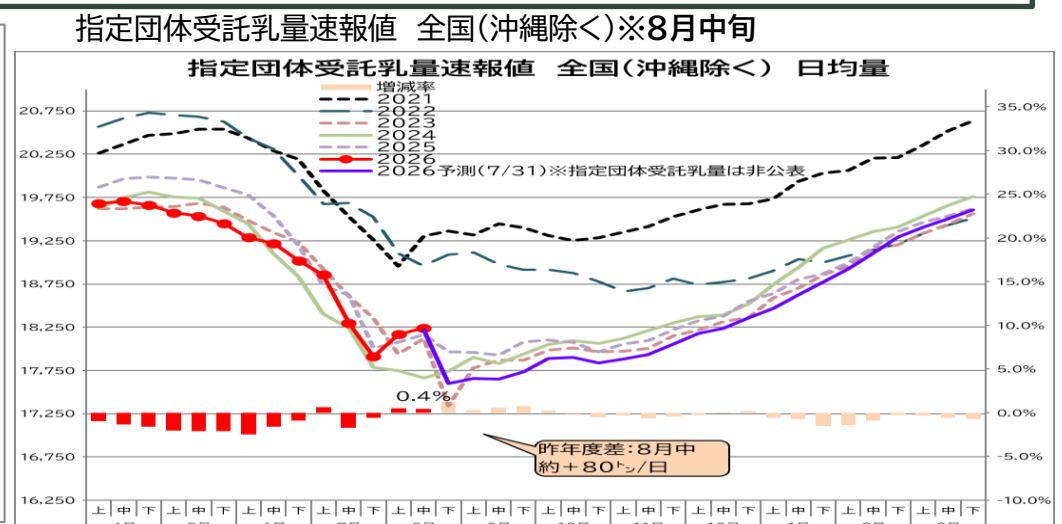
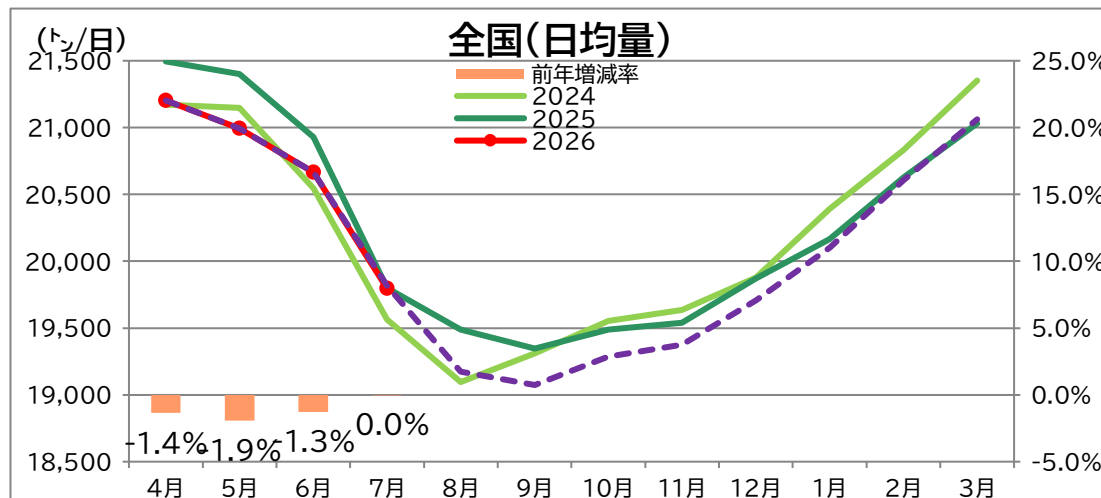
- 8月の牛乳類トータルの販売個数は、3カ月連続で前年水準を下回った一方、牛乳単体では3カ月ぶりに前年水準を上回った。直近週(8/24週)では、牛乳類トータルの販売個数が5週連続で前年水準を下回った一方、牛乳単体の販売個数は2週連続で前年水準並みを維持した。牛乳および牛乳類トータルの販売個数を地域別に見ると、近畿と九州がいずれも2週連続で前年水準を上回った。
- 発酵乳の8/24週の合計販売数量は、個数・容量ベースともに11週連続で前年水準を上回った。内訳を見ると、ドリンクタイプと個食タイプはいずれも2週連続で前年水準を下回ったものの、大容量タイプは36週連続で前年水準を上回った。
- 家庭用バターの販売個数は、10週連続で前年水準を上回り前週から上昇率が拡大した。昨年の価格改定(値上げ)から一巡したこともあり引き続き堅調な推移を見せている。

【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

(1)7月の生乳生産量は、全国613.7千トン(前年同月比100.0%)、北海道366.6千トン(同100.9%)、都府県247.1千トン(同98.6%)。

(2)7月31日に公表したJミルク予測値(全国614.4千トン、北海道364.9千トン、都府県249.5千トン)との比較は北海道は上振れ、都府県は下振れした。

(3)直近の指定団体受託乳量速報値は全国が8月中旬(最新、以下同)で同100.4%、都府県(沖縄除く)が同100.1%、北海道は8月下旬が同100.2%となった。

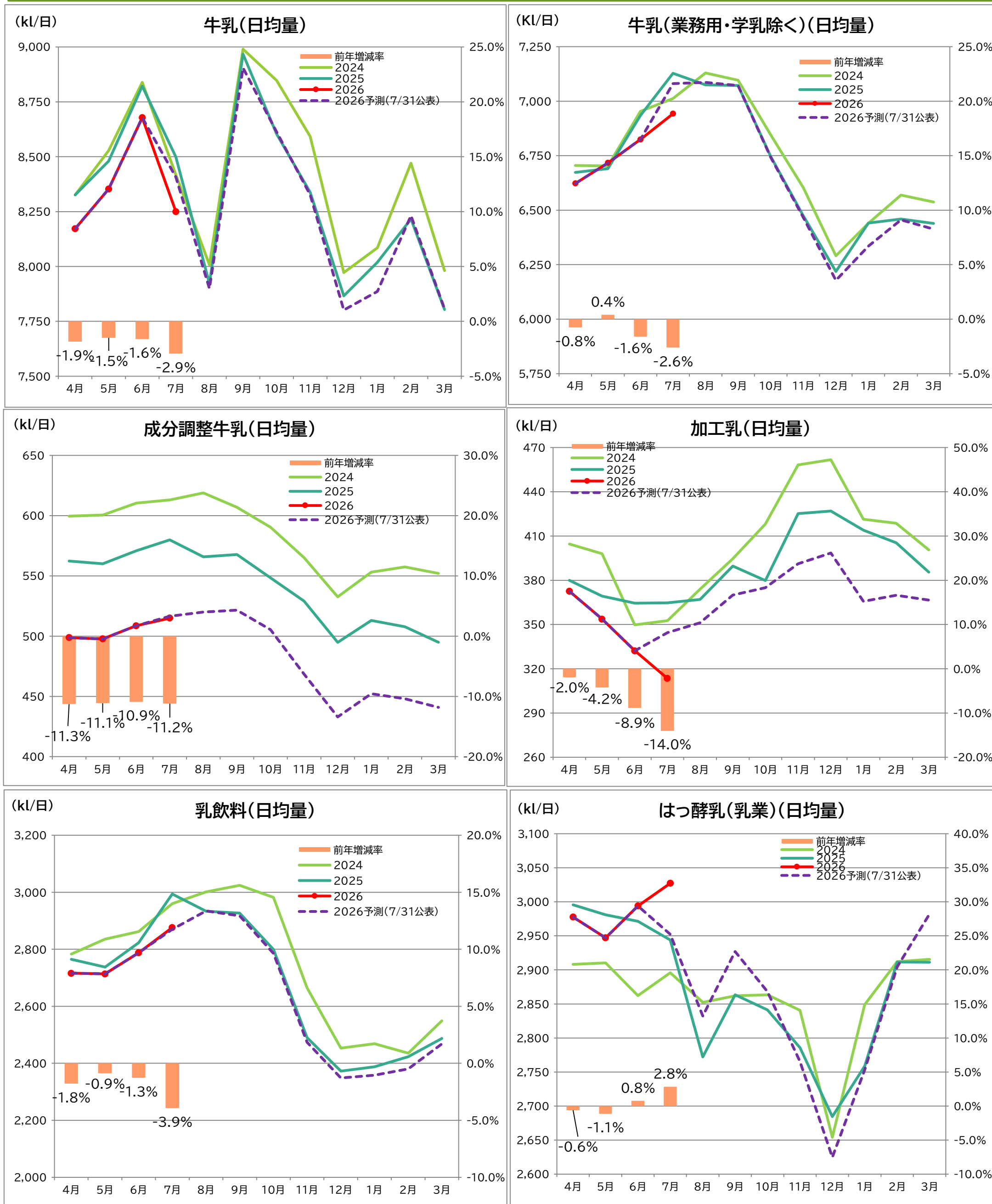


【牛乳等生産量】※増減率は、日均量で算出。

(1)7月の牛乳等生産量は、牛乳255.7千kl(前年同月比97.1%)、成分調整牛乳16.0千kl(同88.8%)、加工乳9.7千kl(同86.0%)、乳飲料89.2千kl(同96.1%)。牛乳類合計(牛乳・成分調整牛乳・加工乳・乳飲料)では370.6千kl(同96.1%)となり、12カ月連続で前年を下回った。

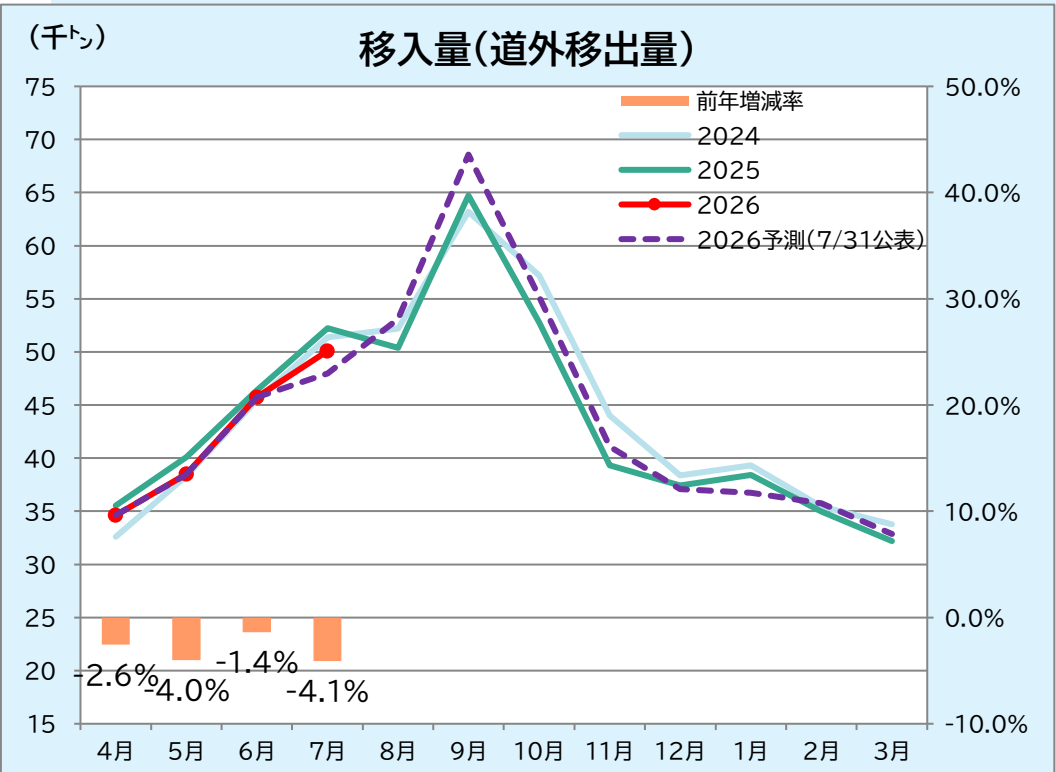
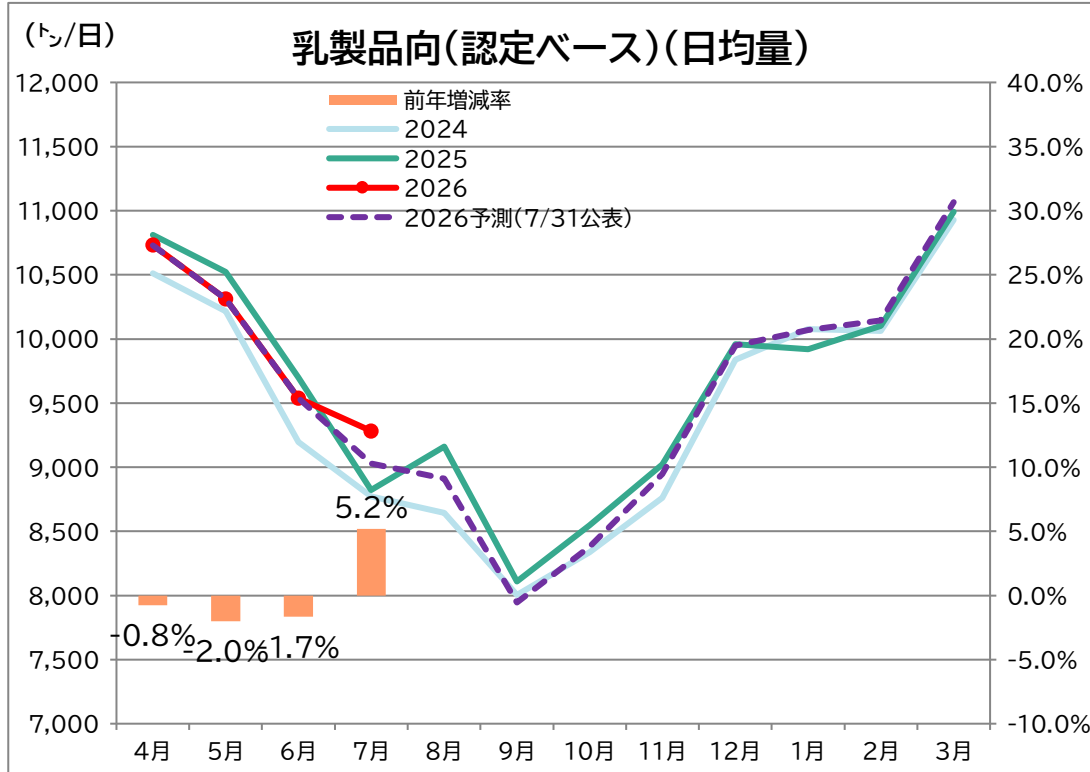
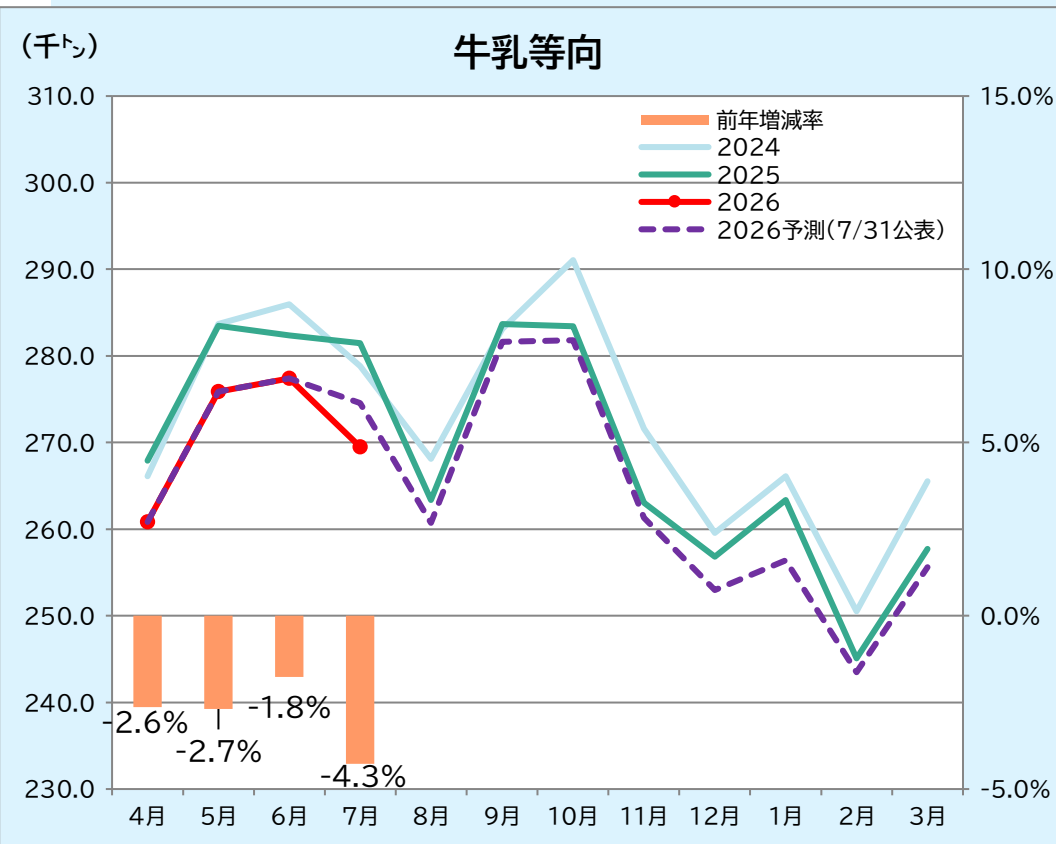
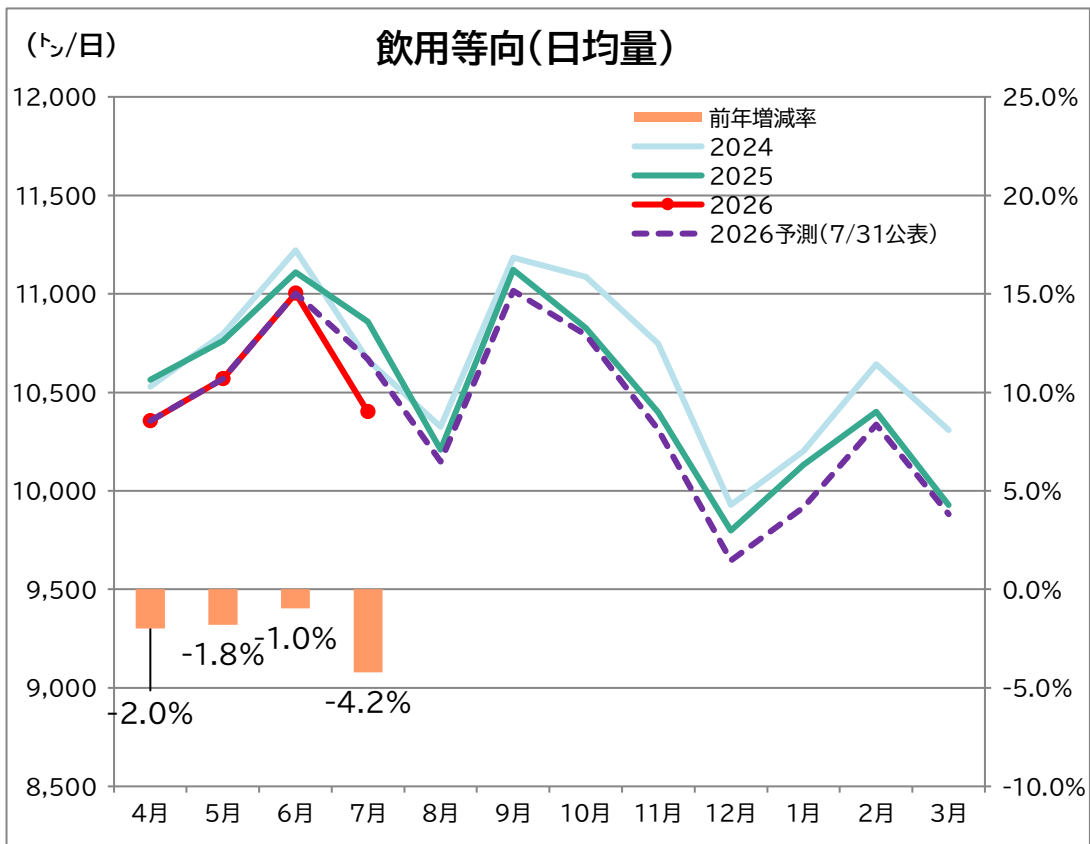
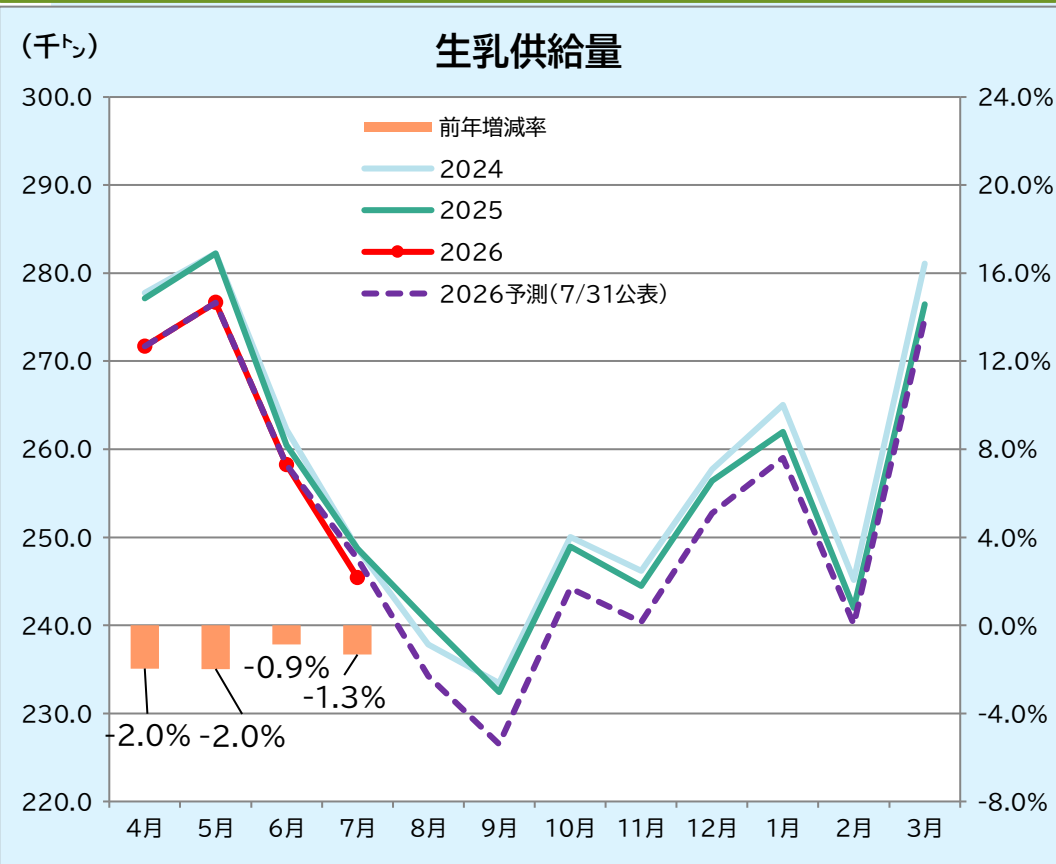
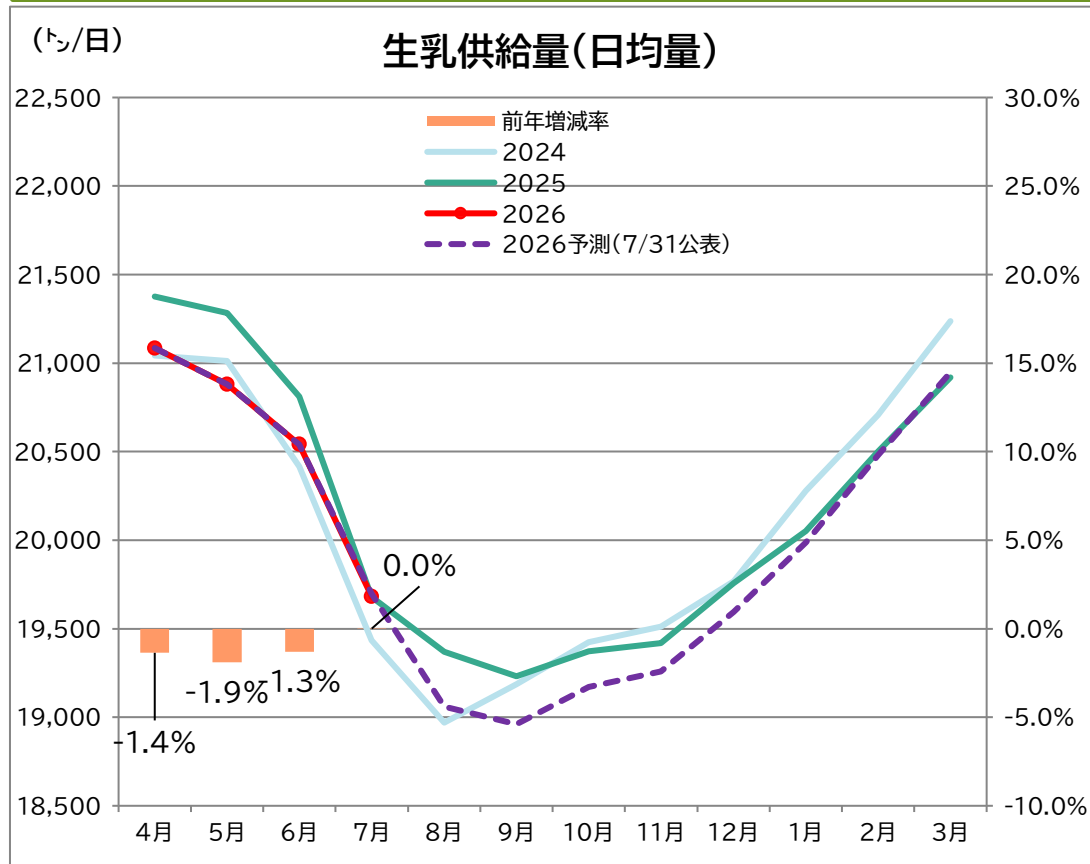
(2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同97.4%、「業務用」は同97.8%、「学乳」は93.1%。

(3)はっ酵乳(乳業)は93.8千kl(同102.8%)、はっ酵乳(非乳業:6月実績)は100.6%となった。



(1)7月の生乳供給量は610.1ト(前年同月比100.0%)、飲用等322.4千ト(同95.8%)、乳製品向(認定ベース)287.7千ト(同105.2%)。
(2)飲用等向が12か月連続で前年を下回り、生乳供給量が前年並みで推移した結果、乳製品向は4か月ぶりに前年を上回った。
(3)7月31日に公表した予測値との比較では、生乳供給量(予測値:610.6千ト)は下振れ、飲用等向(予測値:330.7千ト)は上振れ、乳製品向(予測値:279.9千ト)は上振れとなった。

(1)7月は、生乳供給量245.4千ト(前年同月比98.7%)、牛乳等向269.5千ト(同95.7%)。
(2)北海道からの移入量については50.1千ト(同95.9%)と10カ月連続で前年を下回った。
(3)7月31日に公表した予測値との比較では、生乳供給量(予測値:247.6千ト)は下振れ、牛乳等向(予測値:274.6千ト)はやや上振れ、移入量(予測値:48.0千ト)はやや上振れとなった。



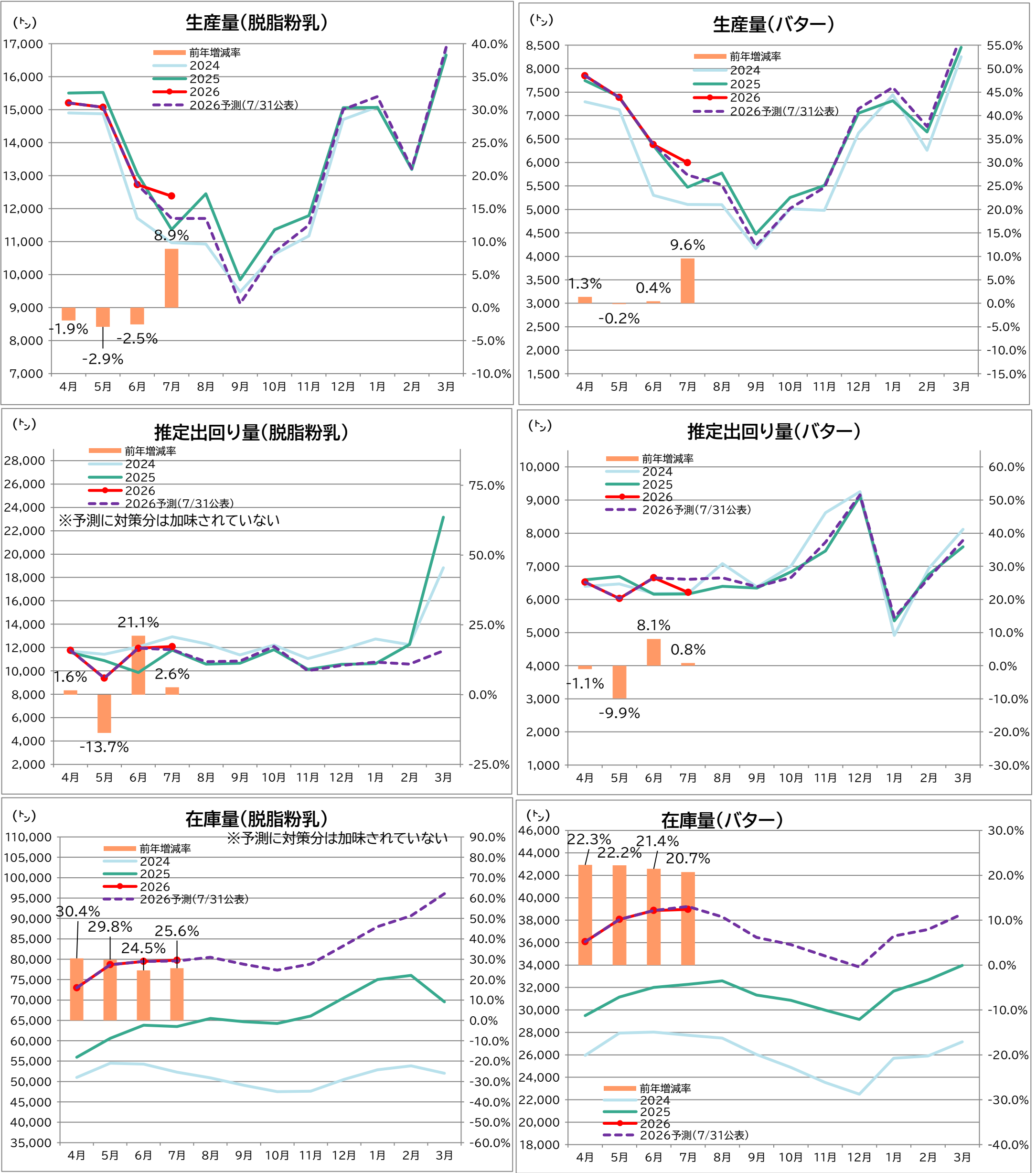
【脱脂粉乳・バターの需給】

(1)脱脂粉乳について7月の生産量は12.4千ト(前年同月108.9%)、推定出回り量は12.1千ト(同102.6%)となった。出回り量が生産量を下回り在庫量は前月から0.3千ト程度増加し、79.8千ト(同125.6%)となった。在庫量は2024年12月、約2年3カ月ぶりに前年水準を上回りそれ以降、18カ月連続で前年超えで推移している。2026年3月には4か月ぶりに7万トを下回ったが、4月は再び7万ト台に増加した。

※なお、推定出回り量の実績について、需給変動対策による在庫低減対策を差し引いた数量は97.6%。

(2)バターについて、7月の生産量は6.0千ト(同109.6%)、推定出回り量は6.2千ト(同100.8%)となった。国家貿易による輸入売渡分(約0.3千ト)も考慮すると在庫量は前月から約0.1千ト増加し39.0千ト(同120.7%)となった。在庫量は23カ月連続で前年超え。

➡脱脂粉乳とバターの需要のアンバランスが表面化するなか、飲用需要が低調に推移している。脱脂粉乳は、積み増しを避けるべく需要拡大や理解醸成活動による消費の底上げを図る必要がある。バターは、消費動向を注視し、国家貿易による対応も含めて需要に対応した安定供給に努める必要がある。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)8月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比100.4%、成分調整牛乳:同91.0%、加工乳:同93.7%、乳飲料:同93.9%。牛乳類全体:同98.8%

【参考】2024年8月比…牛乳:99.6%、成分調整牛乳:84.1%、加工乳:80.4%、乳飲料:92.0%(牛乳類トータル:97.2%)

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(8/24週)の販売個数は、牛乳:前年同期比100.0%、成分調整牛乳:同90.2%、加工乳:同93.1%、乳飲料:同91.5%。牛乳類トータルでは同98.0%

出典 (株)インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 牛乳類の月別販売動向】

単位:千個、円

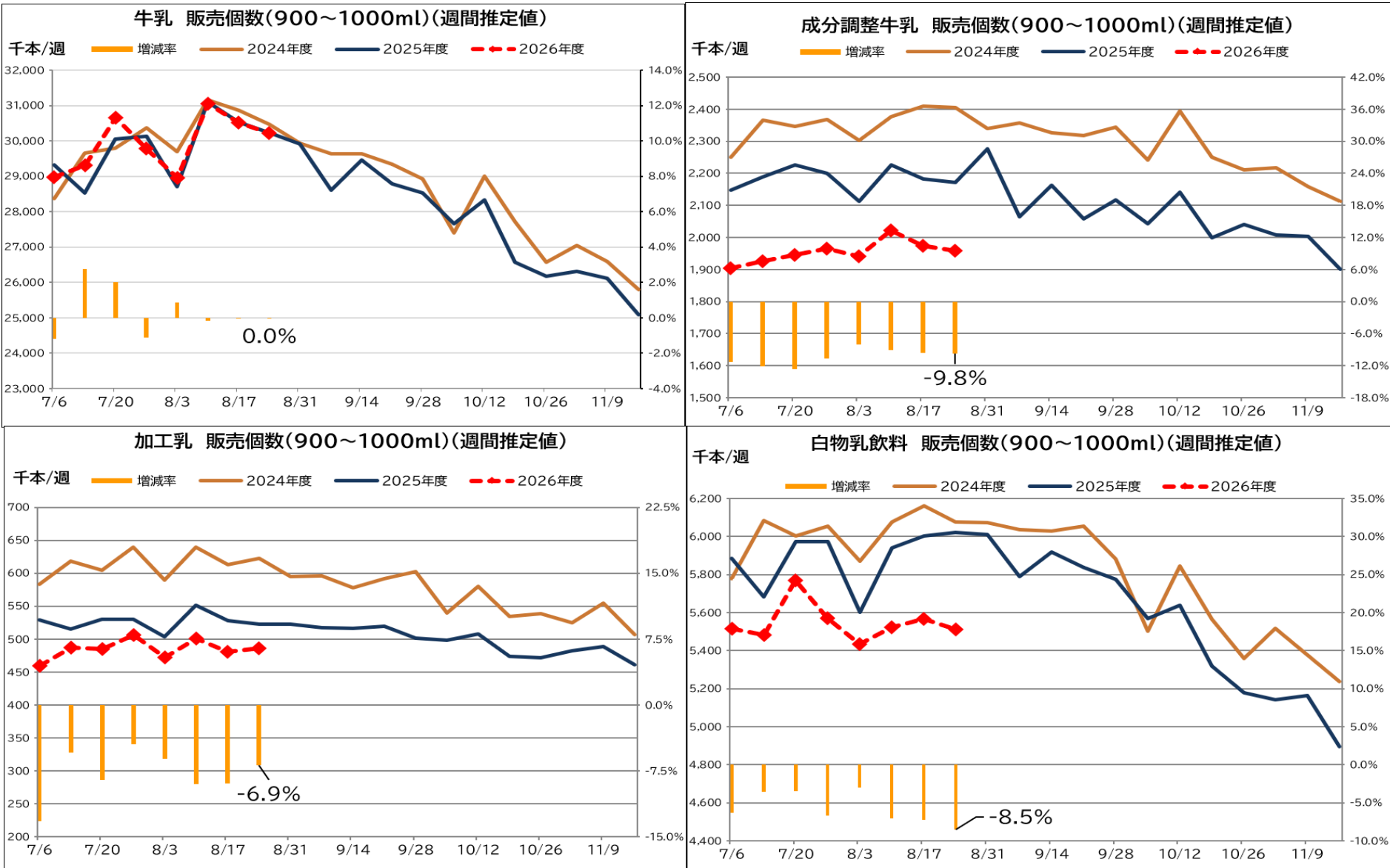
品目	区分	2026/3-	2026/4-	2026/5-	2026/6-	2026/7-	2026/8-	2026/8- 2022/10価格差	2026/8- 2023/3価格差	2026/8- 2023/7価格差	2026/8- 2025/7価格差
トータル	販売個数	146,106	144,517	156,278	153,724	164,178	170,403	42.7	27.6	25.8	9.5
	販売個数前年比	97.6	98.8	102.0	97.7	98.1	98.8				
	販売単価	225.2	225.3	225.2	225.0	225.3	225.8				
牛乳	販売個数	115,117	113,587	123,082	121,120	129,328	134,804	44.1	27.8	27.0	9.2
	販売個数前年比	99.6	100.6	104.1	99.4	99.9	100.4				
	販売単価	233.7	233.8	233.7	233.6	233.9	234.3				
成分調整牛乳	販売個数	7,718	7,576	7,992	7,860	8,424	8,814	45.2	29.6	26.0	12.3
	販売個数前年比	85.0	84.7	86.9	85.6	87.1	91.0				
	販売単価	217.2	217.5	217.8	217.5	218.0	218.4				
加工乳	販売個数	1,925	1,867	1,993	1,936	2,088	2,190	44.8	35.1	24.9	13.4
	販売個数前年比	90.4	90.1	91.5	88.9	90.0	93.7				
	販売単価	233.3	236.5	236.5	237.9	237.1	236.7				
乳飲料	販売個数	21,345	21,486	23,210	22,809	24,338	24,596	31.4	20.8	17.1	7.3
	販売個数前年比	93.0	96.3	98.5	94.6	94.1	93.9				
	販売単価	181.2	182.0	181.3	181.2	180.8	180.9				

速報値

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	7.6-	7.13-	7.20-	7.27-	8.3-	8.10-	8.17-	8.24-	26.8.24- 22.10.24 価格差	26.8.24- 23.3.20 価格差	26.8.24- 23.7.24 価格差	26.8.24- 25.7.21 価格差
トータル	販売個数	36,852	37,206	38,862	37,834	36,806	39,103	38,548	38,186	41.9	27.0	24.6	8.6
	販売個数前年比	97.3	100.8	100.2	97.4	99.7	98.2	98.2	98.0				
	販売単価	225.1	225.4	225.4	225.4	226.3	227.1	225.4	225.1				
	販売個数	28,974	29,313	30,662	29,791	28,959	31,055	30,525	30,231				
	販売個数前年比	98.8	102.8	102.0	98.9	100.9	99.8	100.0	100.0				
	販売単価	233.8	234.0	234.1	234.0	235.0	235.5	233.8	233.7				
	販売個数	1,904	1,925	1,945	1,966	1,942	2,023	1,973	1,958				
	販売個数前年比	88.6	87.9	87.4	89.4	91.9	90.9	90.4	90.2				
	販売単価	217.2	218.2	219.3	218.2	218.0	219.6	218.5	218.2				
	販売個数	459	487	485	506	472	501	481	486				
	販売個数前年比	86.8	94.6	91.5	95.6	93.8	91.0	91.1	93.1				
	販売単価	238.7	234.1	238.3	234.1	240.1	238.1	237.0	235.9				
乳飲料	販売個数	5,515	5,481	5,770	5,571	5,434	5,524	5,568	5,510	29.4	19.5	14.6	4.9
	販売個数前年比	93.7	96.5	96.6	93.3	97.0	93.0	92.8	91.5				
	販売単価	180.7	181.2	180.4	180.7	181.8	181.4	180.6	179.9				

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):インテージSRI+】

(1)直近の週次動向(表⑤参照)

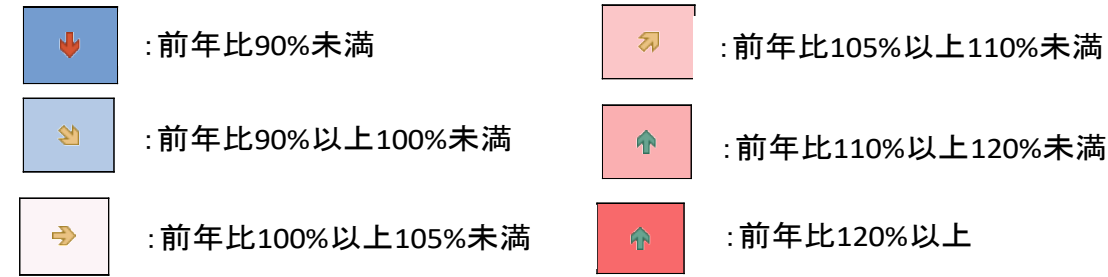
直近(8/24週)の販売個数はドリンクタイプ(90～250ml):前年同期比90%以上、個食タイプ(70～130ml):同90%以上、大容量タイプ (350～500ml):同100%以上。はっ酵乳全体としては、前年を上回った。(3品目合計販売個数は前年同期比100%以上、合計販売容量は同100%以上)。

(2)販売個数について、前週(8/17週)との比較では、ドリンクタイプは横ばい、個食タイプと大容量タイプは減少した。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売個数については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表⑤ ヨーグルト類の販売動向】

品目	6.29-	7.6-	7.13-	7.20-	7.27-	8.3-	8.10-	8.17-	8.24-
ドリンクタイプ	➡	➡	➡	↘	➡	➡	↘	↘	↘
個食タイプ	↘	➡	➡	➡	➡	➡	↘	↘	↘
大容量タイプ	➡	➡	↗	↗	↗	↗	↗	↗	➡



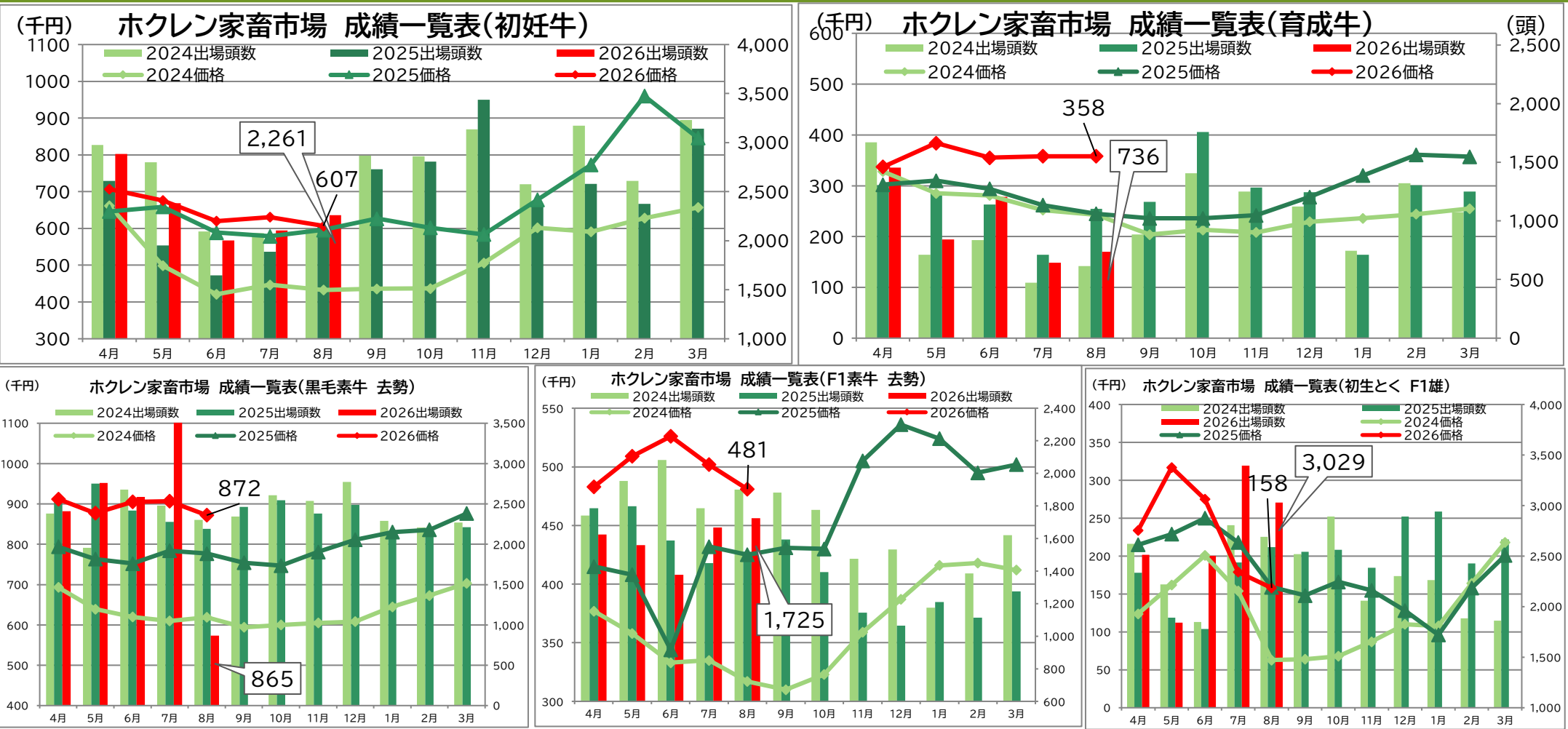
※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向(税込)】

(1)8月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は607千円(前年同期比101.8%)、育成牛価格は358千円(同146.1%)、和牛素牛(去勢)価格872千円(同112.2%)、F1素牛(去勢)価格は481千円(同113.2%)。初妊牛は4カ月連続で60万円台となり、育成牛は8カ月連続で30万円台を維持した。ホル初生(雄)価格は69千円(同225.2%)と、2か月連続で100千円を下回ったものの、前年同月比は6カ月ぶりに2倍以上の水準に上昇した(グラフ無し)。

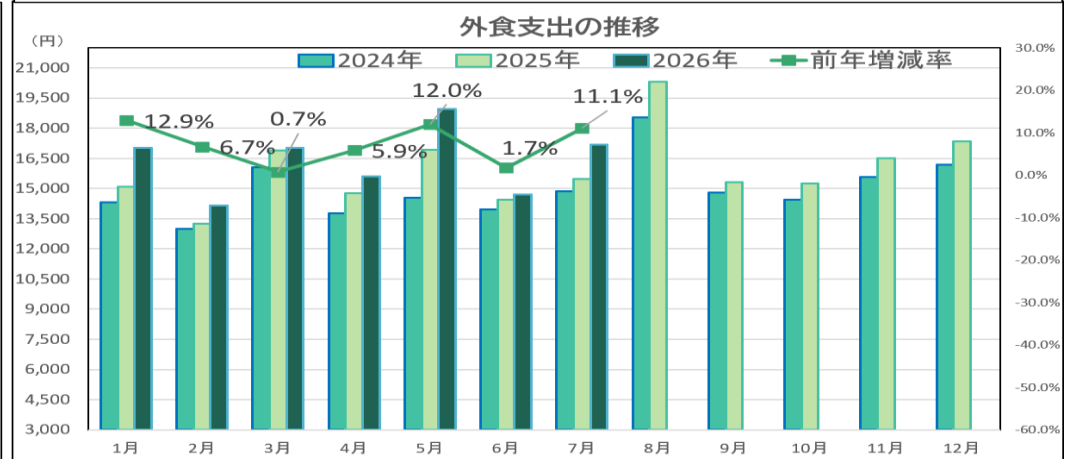
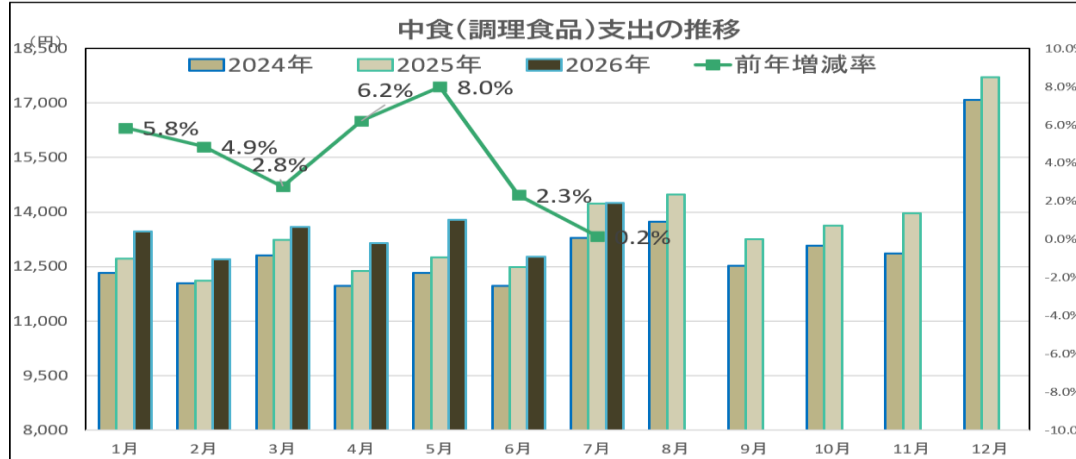
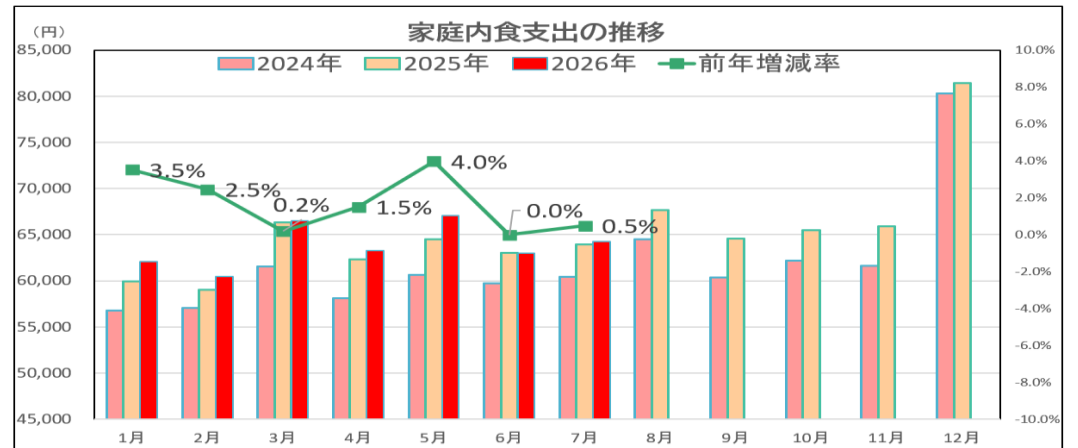
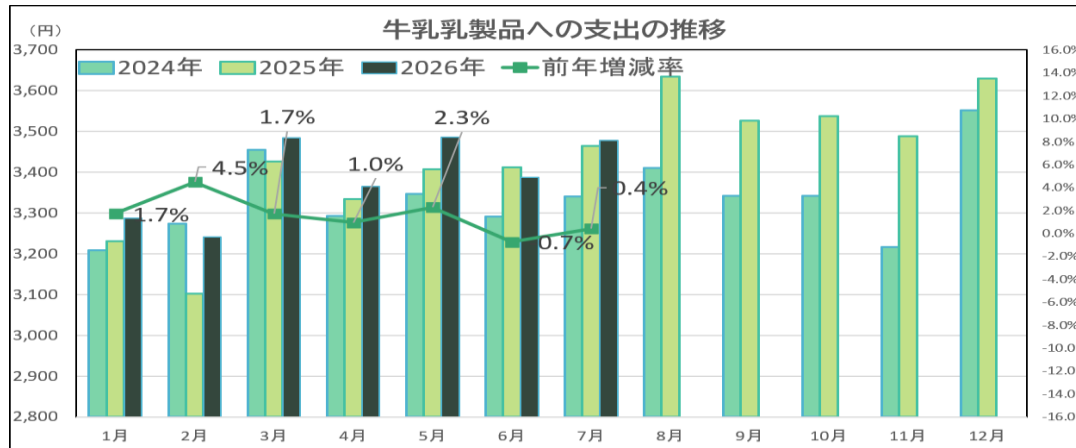
(2)出場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同105.4%、育成牛:同66.7%、F1初生(雄):同117.0%、和牛素牛(去勢):同39.5%、F1素牛(去勢):同113.6%。

※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)

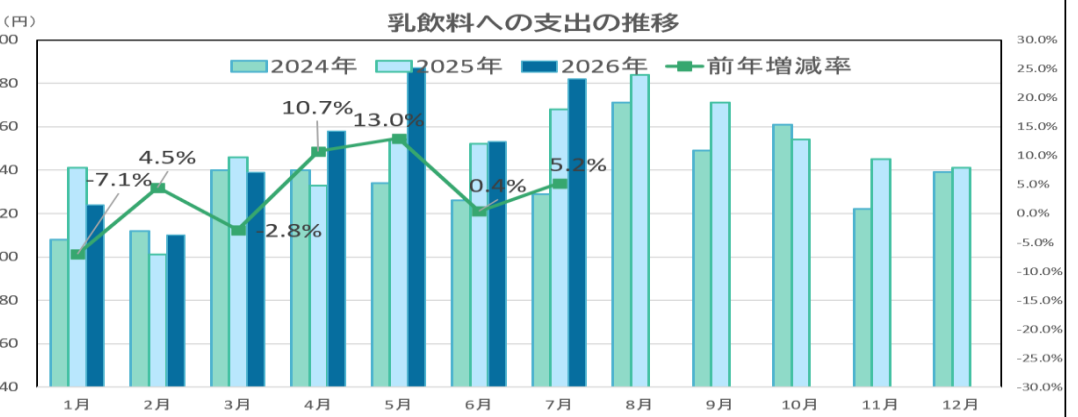
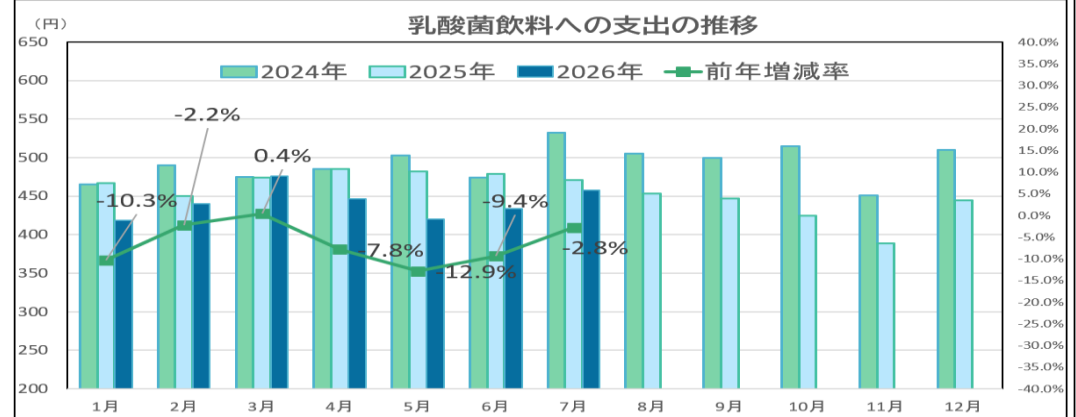
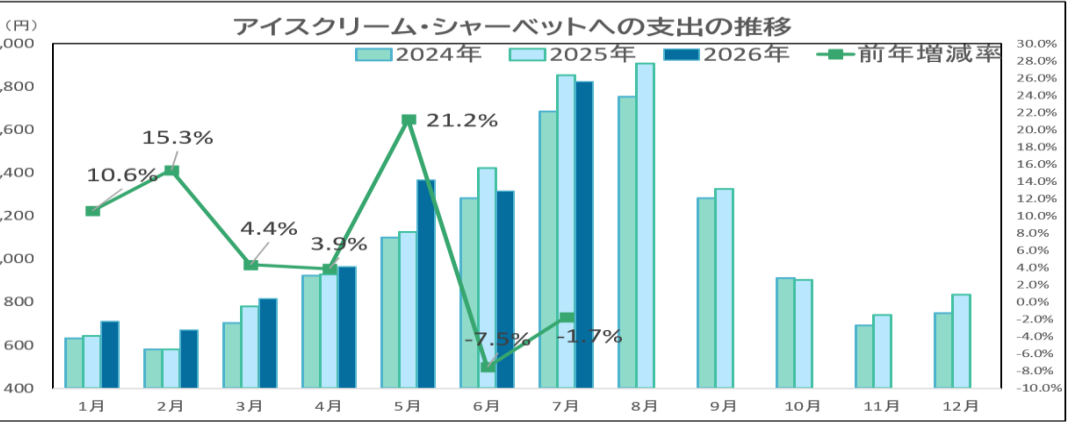
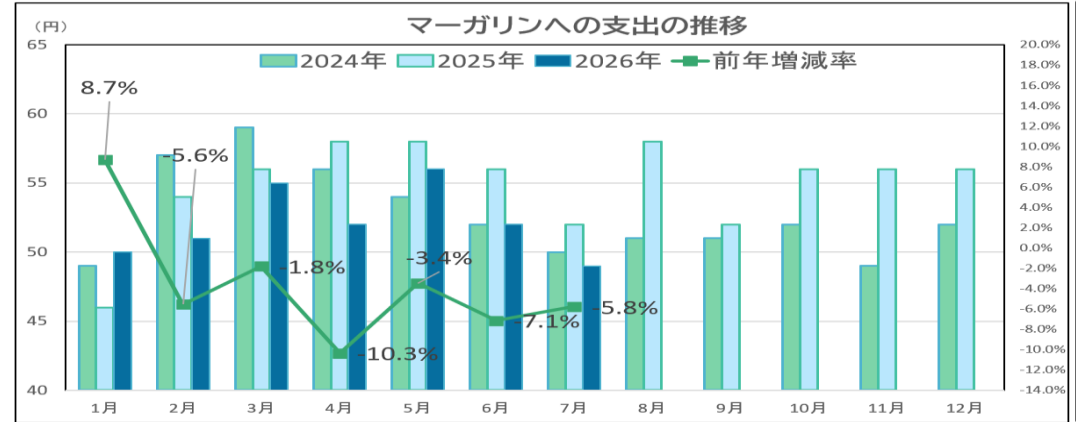
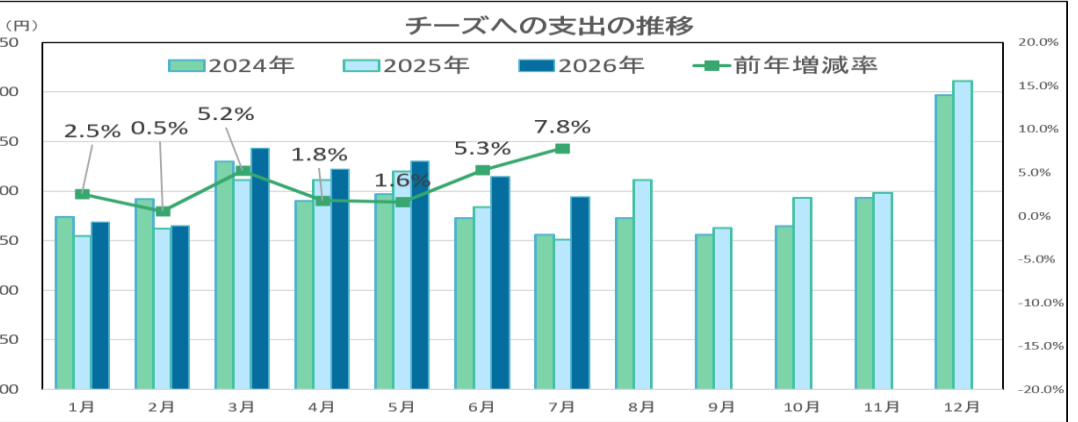
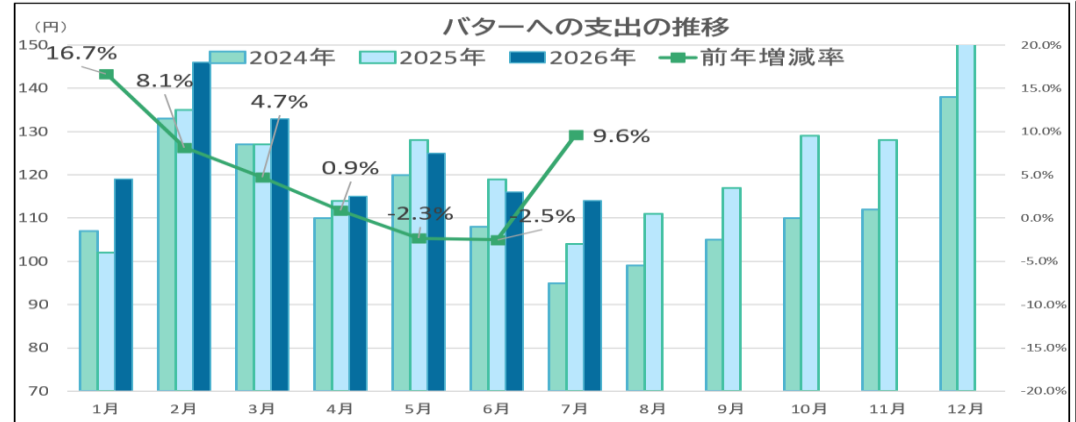
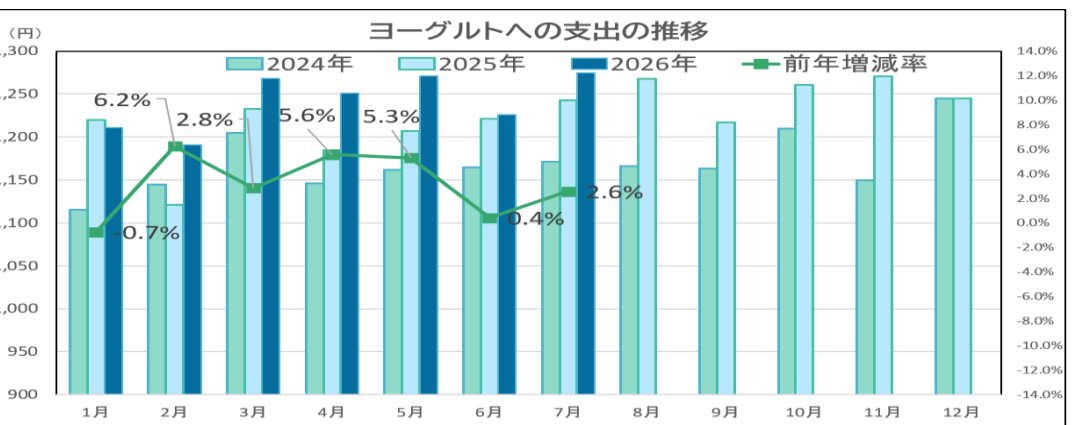
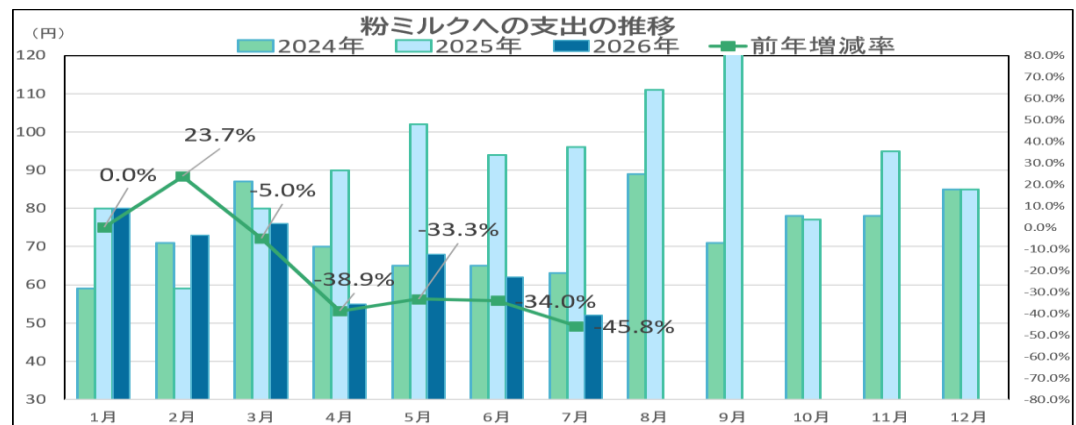


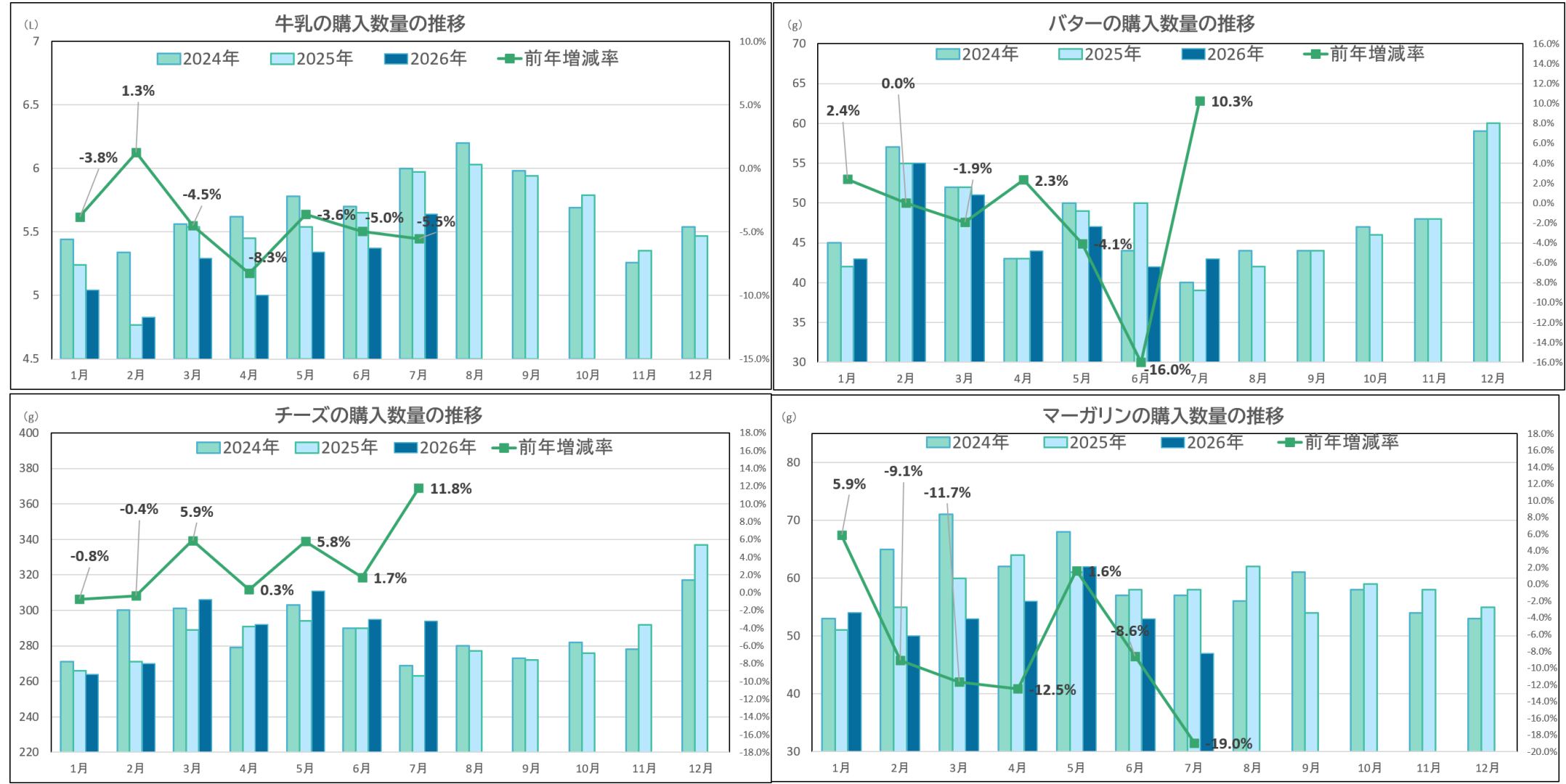
【家計支出の動向】

- (1) 7月の支出額前年比について、外食111.1%、中食100.2%、内食100.5%といずれも前年を上回り、食料全体への支出額は100.6%となった。
- (2) 牛乳乳製品の支出額は前年比100.4%(うち牛乳98.5%、乳製品101.7%)と2カ月ぶりに前年を上回り、牛乳は2か月連続で前年割れとなった。
- (3) なお、購入量は、牛乳94.5%(1世帯当たり5.6㍑)と5か月連続で前年割れ。バターは3カ月ぶりに前年超え、チーズは5か月連続で前年超えとなった。
- ※総務省家計調査(二人以上の世帯。家庭内食は、食料-調理食品-外食で独自に算出)



【参考:その他品目支出の動向】





【乳製品輸出価格の動向】
(1)直近の乳製品国際相場について(8月下旬)
・欧州:脱脂粉乳3,488ドル/トン、バター4,570ドル/トン中心。
・オセアニア:脱脂粉乳3,388ドル/トン、バター5,188ドル/トン、チェダーチーズは3,863ドル/トン中心
※出典:米国農務省(USDA)

